

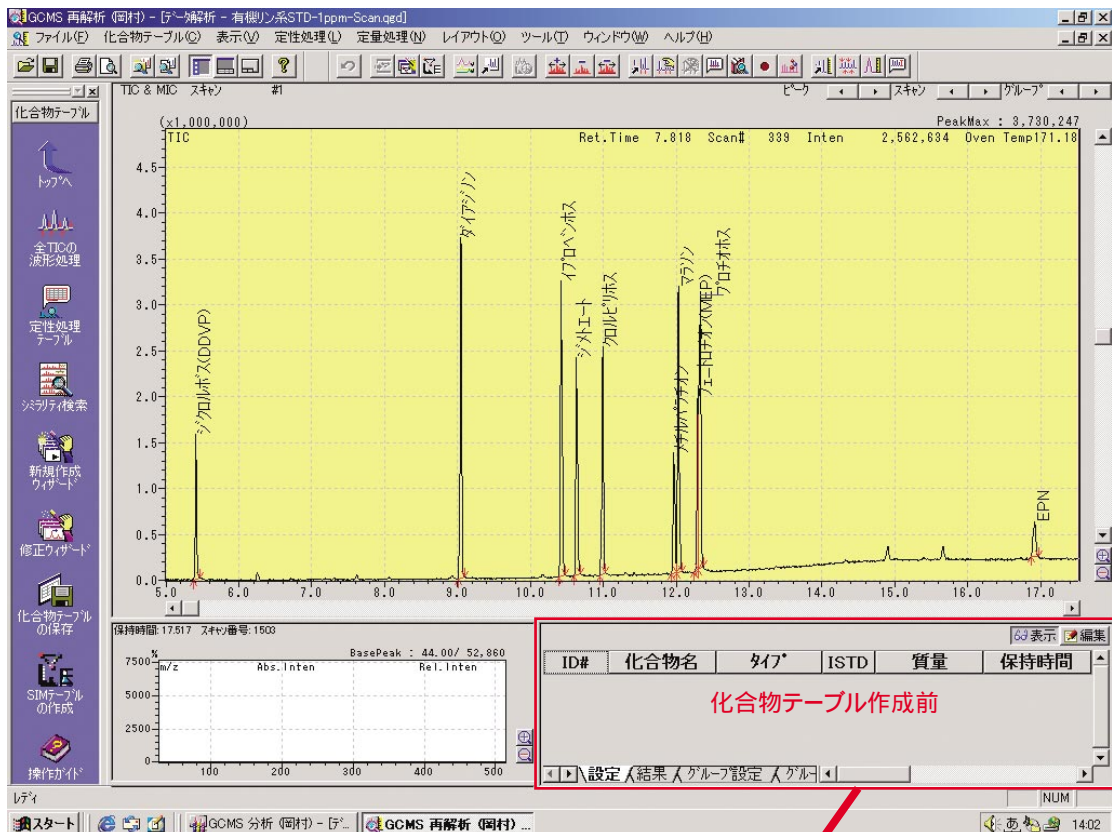
GCMS-QP2010 GCMSsolution Part 2 ウィザード機能による化合物テーブルの作成

– Creation of Compound Table using the Wizard Function –

ガスクロマトグラフ質量分析計ワークステーションソフトウェア「GCMSsolution」に定量分析を行なうための化合物テーブルを作成するウィザード機能が搭載されました。このソフトウェアはスキャン測定を行った結果を

もとに、化合物テーブル作成ウィザード機能を用いて化合物テーブルを作成します。本アプリケーションニュースではこの機能を用いて化合物テーブルを作成し、マスクロマトグラムを出力した例をご紹介します。

Y.Okamura



ウィザード機能を用いた化合物テーブル作成例

ID#	化合物名	タイプ	ISTD	質量	保持時間	濃度単位	確認イオン	濃度(1)	濃度(2)
1	ジクロロビス(DD)	ターゲット	0	109.00	5.408	ppm	1	0.1	0
2	ダイアジノン	ターゲット	0	179.00	9.042	ppm	2	0.1	0
3	イプロヘンホス	ターゲット	0	91.00	10.425	ppm	2	0.1	0
4	ジメエト	ターゲット	0	87.00	10.633	ppm	2	0.1	0
5	クロルピリホス	ターゲット	0	97.00	10.992	ppm	2	0.1	0
6	メチルパラチオン	ターゲット	0	109.00	11.967	ppm	2	0.1	0
7	マラソン	ターゲット	0	173.00	12.033	ppm	2	0.1	0
8	フェニトロチオン(M)	ターゲット	0	277.00	12.292	ppm	2	0.1	0
9	プロチオホス	ターゲット	0	43.00	12.325	ppm	2	0.1	0
10	EPN	ターゲット	0	157.00	16.917	ppm	2	0.1	0

Fig.1 GCMSsolution 再解析画面
GCMSsolution Reanalysis Screen

有機りん系農薬10成分の1mg/L標準試料をスキャン測定したトータルイオンクロマトグラム (TIC ; Fig.1上段に示す) の波形処理から目的成分のピークを検出し、このマススペクトルをスペクトル処理テーブルに登録しておきます。このデータを用い、Fig.2に示したウィザ

ード機能を使って化合物テーブルを作成します。作成した化合物テーブルをFig.1の下段に示しました。Fig.1に示したデータを用いて作成した化合物テーブルによる各成分の定量イオン、確認イオンのマスクロマトグラムをレポート機能により出力した例をFig.3に示しました。

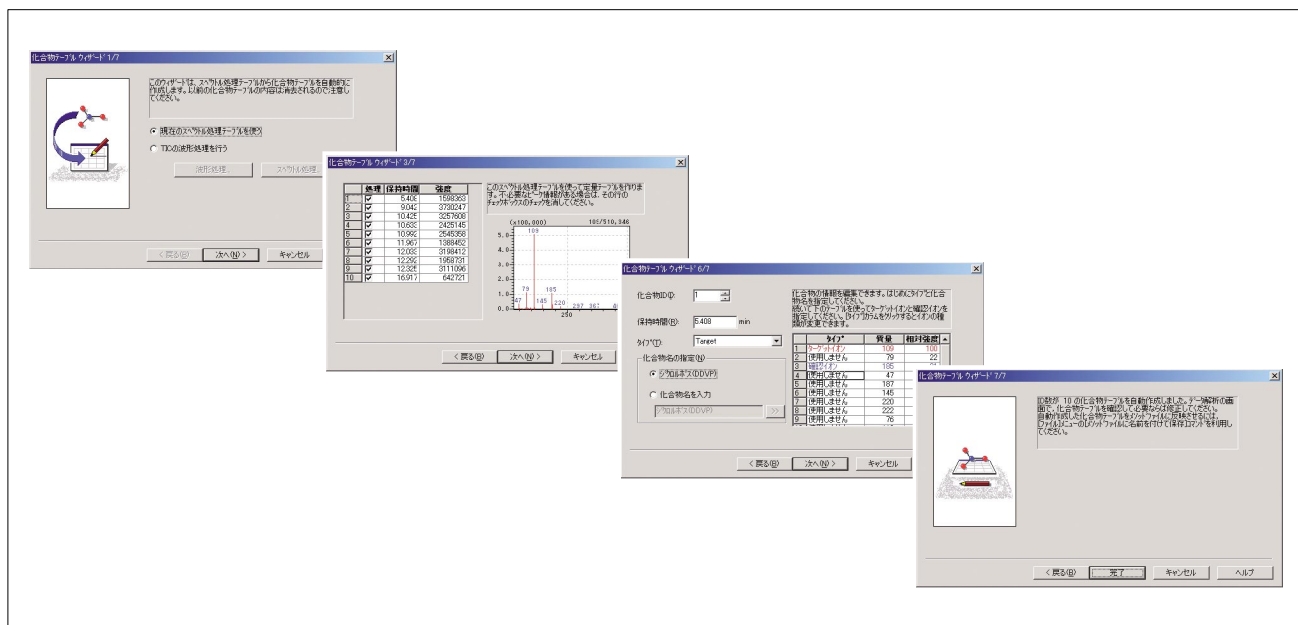


Fig.2 ウィザード設定画面(設定画面を一部抜粋)
Wizard Screen

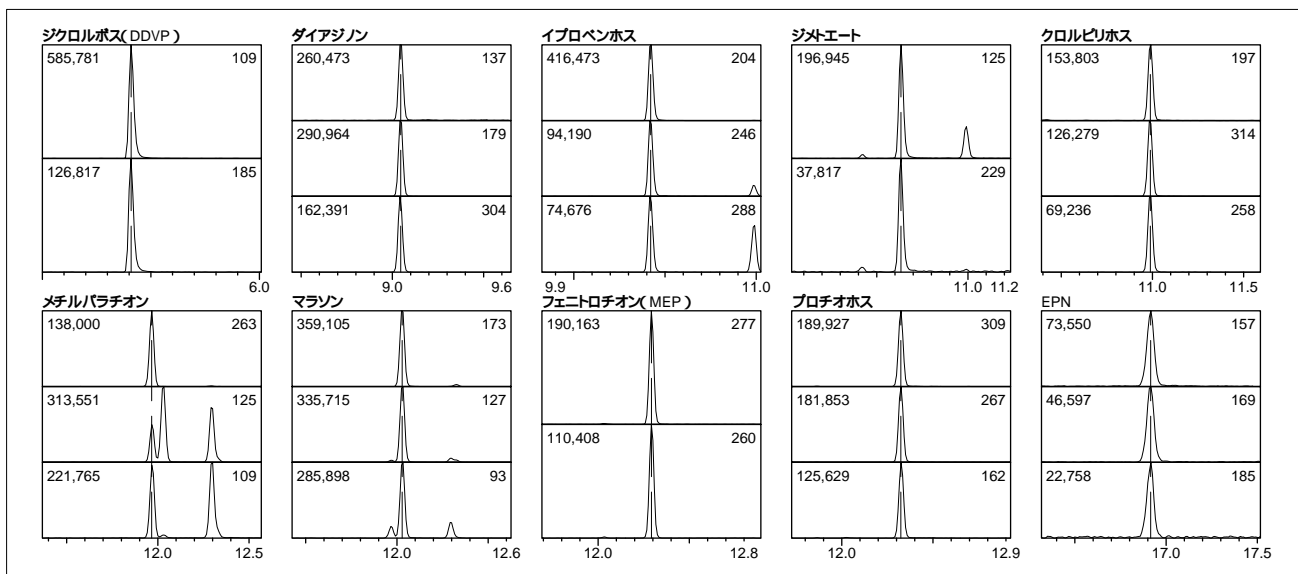


Fig.3 有機りん系農薬マスクロマトグラム
Mass Chromatograms of Organophosphorus Pesticides

化合物テーブル作成のウィザード機能を用いれば簡単に化合物テーブルの作成ができます。また定量イオンや確認イオンの質量を設定する際、画面の表示の質量もしくはマススペクトルから選択できるため、入力ミスを防

ぐ事も可能です。しかも確認イオン比の計算もソフトウェアが自動で行い設定します。GCMSsolutionではこれまで手動入力していた化合物テーブルの作成を、ウィザード機能を用いる事で正確かつ迅速に行なう事ができます。

初版発行：2003年1月

 **島津製作所** 分析計測事業部
応用技術部

島津分析コールセンター

● 0120-131691(携帯電話不可)
● 携帯電話専用番号(075)813-1691

本資料は発行時の情報に基づいて作成されており、予告なく改訂することがあります。改訂版は下記の会員制Web Solutions Navigatorで閲覧できます。
<https://solutions.shimadzu.co.jp/solnavi/solnavi.htm>

会員情報サービス「Shim-Solutions Club」にご登録ください。
<https://solutions.shimadzu.co.jp/>
会員制Webの閲覧だけでなく、いろいろな情報サービスが受けられます。